

びわいチサイクリストの関与と知覚リスクについて

岡 優希 (競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)

指導教員 山本 達三

キーワード: 活動関与, 製品関与, IP (Involvement Profile)

1. 緒言

Lauren と Kapfere(1894) が開発した IP (Involvement Profile) は耐久財やサービス消費に対する関与尺度であり, 1991 年には, Dimanche らがオリジナルの IP を英語化し, レジャー活動場面へ適応可能な尺度を開発した。しかし, レジャー版 IP のリスク項目では活動場所選択に関するリスクのみとなっている。スポーツ・レジャー活動の関与では, 活動場所に対するリスク以外にも, 身体的・経済的・心理的・機能的・時間的や, その調整要因である「自己調整」などが存在する。

本研究の目的はスポーツ・レジャー活動としてのびわいチサイクリストを対象に, 関与, 知覚リスク, 自己調整, 地域愛着を測定し, 関与のステージごとで平均値・平均ランクに有意な差があるのか, 場所に限定されたリスク項目以外にも関与に含めるべきリスク要因が存在するのか検討することである。

2. 研究方法

[調査対象]: びわいチをしているサイクリスト 257 票, 高島市でのロングライドイベント参加者 131 票。 [調査項目]: 坂口(2004)の関与 IP 尺度 (5 因子 15 項目), Jacoby and Kaplan(1972)の知覚リスク (5 因子 15 項目), 地域, 愛着の測定指標 (3 項目), 基本属性 (郵便番号, 移動コスト, 年間派生費用 (財支出, サービス支出), Hubbard ら (2001) の自己調整 (4 因子 12 項目)。 [インタビュー調査] 滋賀県庁プラスサイクル推進協議会でのインタビュー調査も実施した。

3. 結果

表 1 は Funk (2001) の PCM staging score を参考にびわいチサイクリストを 4 つのステージに分類し, 平均ランクを比較した結果, 時間的リスク以外の項目と行動変数の「自転車所持台数」で帰無仮説が棄却され, 有意な差が認められた。

表 2 は関与を従属変数, 知覚リスクを独立変数に重回帰分析をした結果である。「心理的リスク」が関与のすべての項目で負の関連性が認められた。また, ここでは示していないがびわいチと高島のロングライドイベント間で各変数の平

均値を比較したところ, 多くの項目で有意な差が認められた。

4. 考察

表 1 では, 活動関与ステージ間で消費者心理, 行動変数に有意な差が認められ, 関与を調整変数として利用することが消費者の識別に有用であることが確認された。表 2 では, 重要性・楽しさ・記号性と場所のリスク項目は正の関係になっている。リスク項目は, 重要性などとは負の関係になるはずである。知覚リスクの時間的リスク以外は, 関与の 3 要因と負の相関・関係が確認された。場所のリスクを含めるよりは, 身体, 金銭, 社会, 心理, 機能的リスクを IP に含む方が妥当である。また, びわいチと高島ロングライドの比較から, 同じサイクリストでもエクササイズ志向とイベント志向で, 関与プロフィールが大きく異なることが確認された。

表1. 4ステージ間のKruskal wallisの順位和検定

因子	Awareness (n=46)	Attraction (n=21)	Attachment (n=103)	Allegiance (n=92)	χ ² 値	効果量(r)
	平均ランク	平均ランク	平均ランク	平均ランク		
身体的リスク	163.04	145.40	123.37	119.58	12.36	.05(無)
金銭的リスク	165.57	148.90	119.03	120.61	15.40	.06(無)
社会的リスク	161.76	127.96	132.37	115.12	11.75	.05(無)
心理的リスク	183.10	145.92	126.47	106.12	33.29	.13(小)
時間的リスク	133.67	116.12	143.48	120.05	5.73	.02(無)
機能的リスク	176.16	151.54	122.00	112.92	25.00	.10(小)
時間的調整	87.39	90.78	137.27	152.30	30.85	.12(小)
知覚的調整	97.24	95.36	129.45	153.97	22.82	.09(無)
社会的調整	110.91	94.38	130.01	147.78	13.93	.05(無)
金銭的調整	108.78	92.12	132.94	144.97	14.12	.05(無)
自転車所持台数	76.18	71.40	77.32	105.07	15.1	.10(小)

表2. 活動関与と知覚リスクの重回帰分析 (びわいチ)

	重要性	楽しさ	記号性	リスク	重要性	リスク可能性
R (R ²)	.376(.142)**	.485(.235)**	.385(.148)**	.169(.029)*	.188(.035)*	
身体的リスク	(-.037)	(-.038)	(-.017)	(.073)	(.105)	
金銭的リスク	(-.072)	(-.034)	(-.006)	(.074)	(.102)	
社会的リスク	(-.014)	-.148*	(-.093)	(.010)	(-.020)	
心理的リスク	-.396**	-.335**	-.284**	.169*	.188*	
時間的リスク	(.129)	.258**	(-.007)	(.027)	(-.025)	
機能的リスク	(-.065)	-.155*	-.141*	(.042)	(.047)	

(標準化係数) はステップワイス法により除外された変数

*p<.05, **p<.01

[参考文献]

坂口俊哉, 菊池秀夫. (2002) 日本語版 IP (Involvement Profile) の検討: レジャーフィッシングへの適用, スポーツ産業学研究, Vol. 12, No. 2: 47-61.